

資料 1

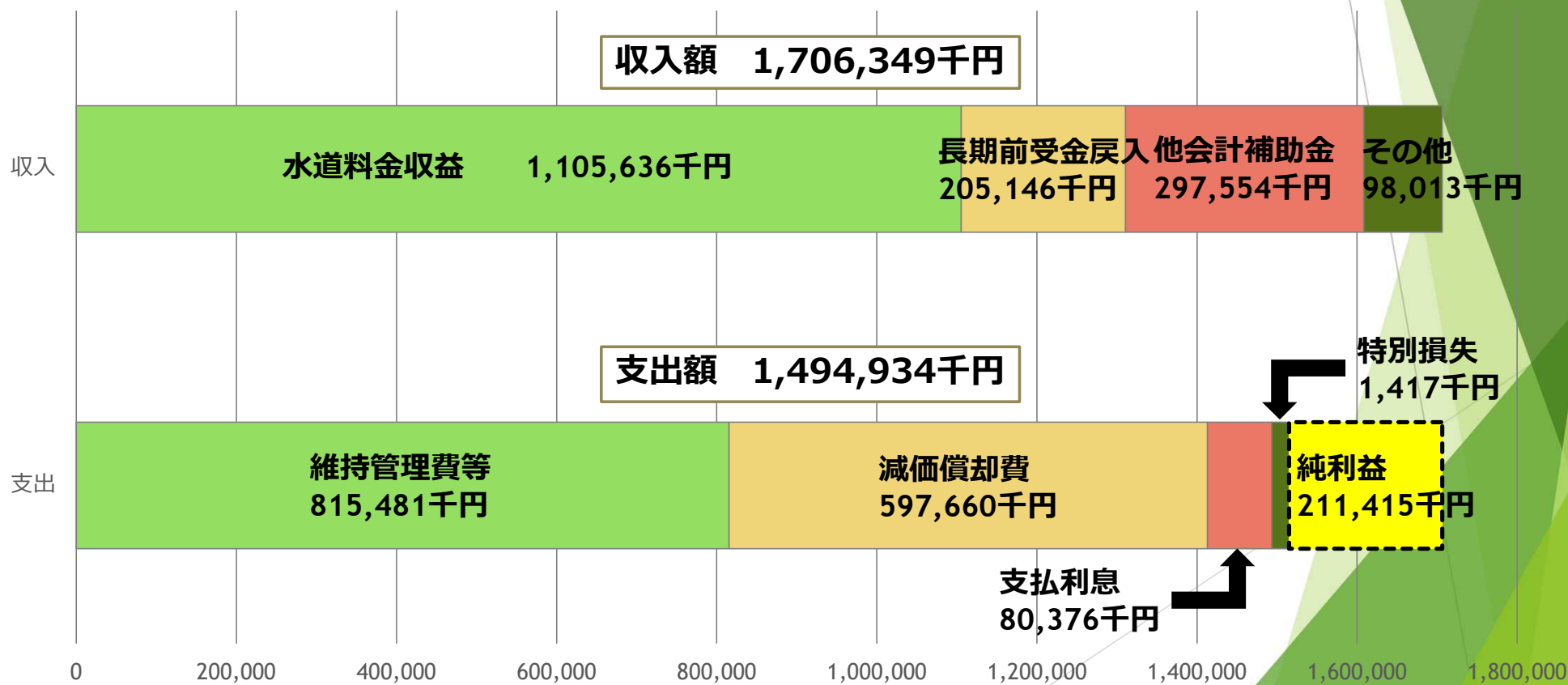
令和5年度 行田市水道事業会計 決算について

事業概要

事 項	単 位	令和5年度	令和4年度	前年度との比較		
				増・減	比率(%)	
年度末給水人口	人	75,501	76,004	△ 503	△ 0.66	
給水区域内人口	人	78,135	78,550	△ 415	△ 0.53	
普及率	%	96.63	96.76	△ 0.13	-	
年度末給水戸数	戸	35,666	35,275	391	1.11	
配水量	年間	m ³	9,736,609	9,626,300	110,309	1.15
	一日平均	m ³	26,603	26,373	230	0.87
有収水量	年間	m ³	8,364,615	8,455,377	△ 90,762	△ 1.07
	一日平均	m ³	22,854	23,165	△ 311	△ 1.34
一日最大配水量	m ³	28,386	29,565	△ 1,179	△ 3.99	
有収率	%	85.91	87.84	△ 1.93	-	

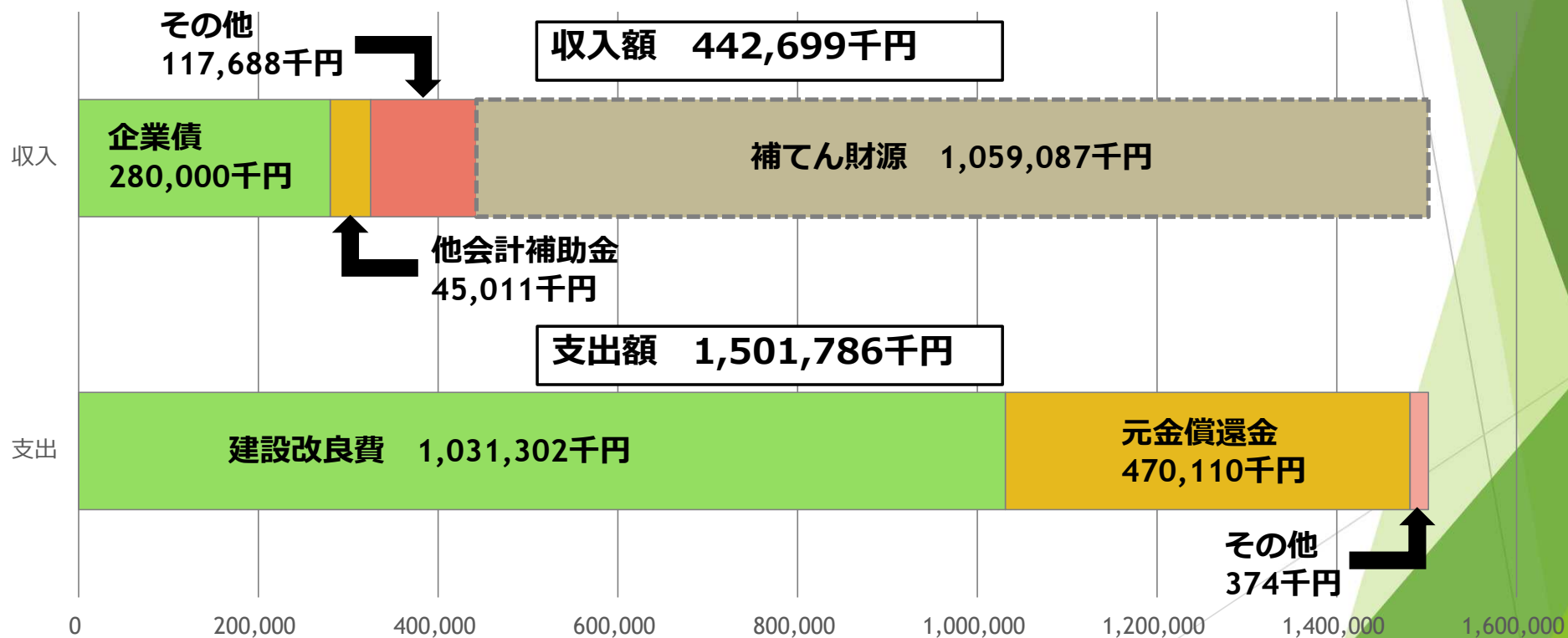
収益的収支【3条：営業活動の結果】

水道水を供給して得た収益と
水道水を作って、各家庭に水を配るための経費



資本的収支【4条：建設部門の結果】

水道管を布設するための負担金や企業債（借入金）
水道管布設・施設更新や企業債償還金などの経費



令和5年度の主な事業内容

▶ 水道基本料金の無料化を実施

- 物価高騰等への対策として、令和5年6月検針分から令和5年9月検針分及び令和5年12月検針分から令和6年1月検針分（計6か月分）の基本料金の無料化を実施しました。
- 水道基本料金無料化の実施により、営業利益がマイナスとなっておりますが、営業外収益の一般会計繰入金により減収分を補てんしております。

▶ 災害用品（簡易水槽）の備蓄

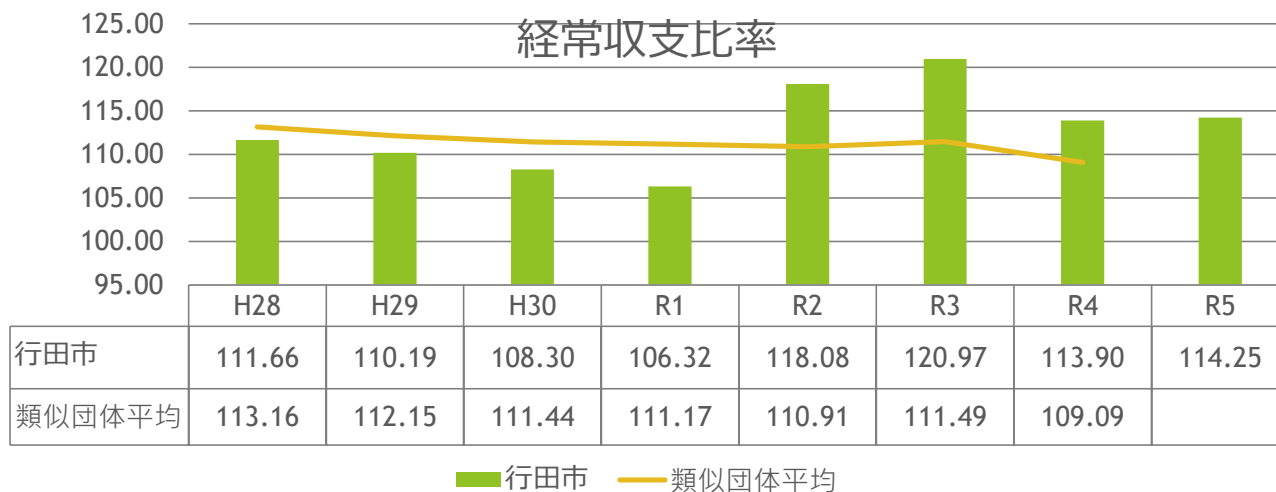
- 折り畳み式簡易水槽（避難所等に設置可能な500又は1,000リットルの給水タンク）を購入し、災害時には常時給水できる体制を整えるように計画的に備蓄していきます。

▶ 能登半島地震に伴う給水車及び職員の派遣

- 令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」の被災自治体を支援するため、日本水道協会埼玉県支部からの要請を受け、2度にわたり給水車1台と職員計8名を派遣しました。

経営分析

経常収支比率



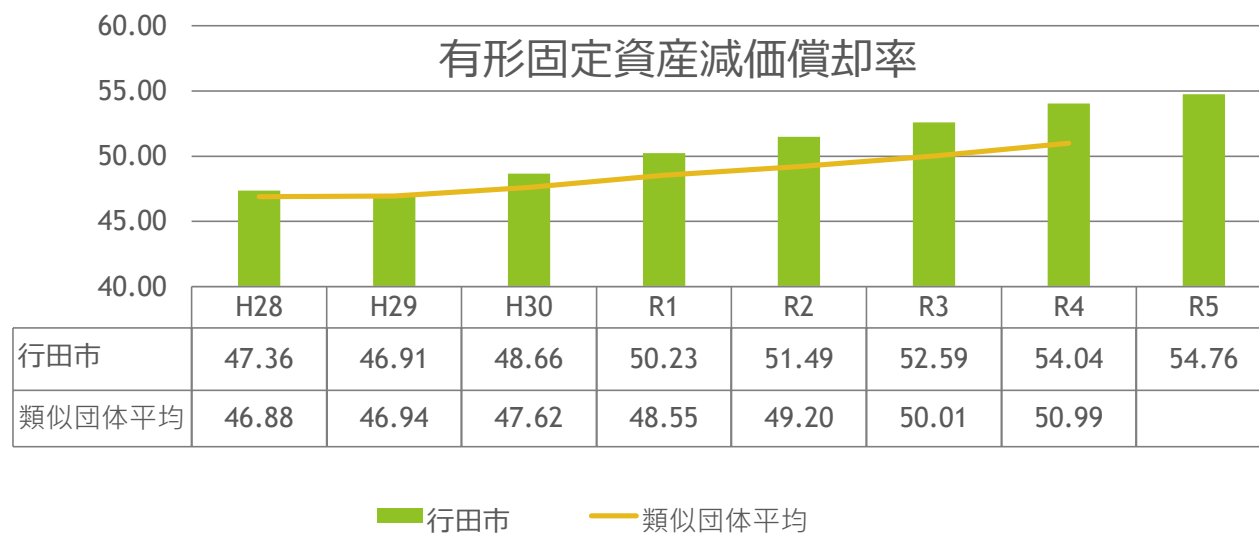
指標の意味

収益（3条）で維持費等がどの程度賄えているかを表す指標。100%以上が良いとされている。

行田市の状況

電気料が落ち着いたことや支払利息の減少により若干増加し、約114%となった。

有形固定資産減価償却率



指標の意味

有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標。減価償却が進むと耐用年数に近い（老朽化した）資産が多い。

行田市の状況

約55%の資産の減価償却が進んでいる。